被災地派遣レポート＜第７５回＞

建設局第五建設事務所工事課 荒木 智さん

１　はじめに

平成２５年１月１日から同年３月３１日までの３ヶ月間、宮城県気仙沼土木事務所において派遣職員として被災地支援に携わりました。この３ヶ月間の活動状況等を報告します。

２　派遣先での活動状況

（１）派遣先について

派遣先の気仙沼土木事務所は、宮城県北東部の太平洋沿岸にあり、岩手県南部と接するところに位置し、気仙沼市・南三陸町の道路、河川及びダムの建設、維持管理を行っています。職員数は約１００名、宮城県職員が約７割、派遣職員が約３割です。気仙沼市・南三陸町は、美しい海岸と世界有数の漁場など恵まれた条件を背景に水産業・観光等を基幹産業とした地域です。しかし、リアス式海岸の地形的な特性から津波の影響を

写真－１　安波山から気仙沼市内を望む

写真－２　気仙沼市鹿折地区の現状

受けやすく、海岸線が入り込んだ複雑な地形になっているため、気仙沼では平成２３年３月１１日に発生した東日本大震災において甚大な被害を受けました（写真－１参照）。現在は、一部の建物を残してがれきの撤去作業が進んでおり、更地となっています（写真－２参照）。

（２）職務内容について

気仙沼土木事務所での配属先は道路管理班でした。道路管理班の主な業務内容は、国・県道の維持管理、交通安全施設の整備、災害の情報収集等です。道路管理班は宮城県職員３名、任期付職員１名及び私の計５名で構成され、担当した職務内容は、橋梁・道路の補修設計・工事監督、県道と一部の国道の維持管理、住民要望の対応等でした。

写真－３　津波で壊された道路

橋梁補修では、一般国道３４６号路線上の気仙沼市本吉町にある猪鼻橋等の橋梁補修設計、工事起工を行うとともに、担当した舗装補修工事を竣工させました。また、道路パトロールを行い路面や道路附属物を点検し、舗装表面劣化箇所については直営で常温合材アスファルトを使用して復旧する等、良好な道路の維持管理業務に携わりました。

３　おわりに

派遣前は見知らぬ環境で生活していけるか多少の不安もありましたが、多くの方々の助けを受け、無事派遣終了を迎えることができました。派遣当初、被災状況を見た際、あまりの被害の大きさに強い衝撃を受けたことを今でも覚えています。派遣期間３ヶ月、時の経つのはあまりにも早く、ようやく環境や仕事に慣れてきたかなというところで、任期終了となってしまいました。

仕事においては、道路管理班職員をはじめ、多くの方にお世話になりました。また、職場の第五建設事務所の方々にも快く送り出していただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。被災地派遣で得られた貴重な経験を今後に生かしていこうと思います。東日本大震災による混乱した状況から一日でも早い復興宣言ができるよう、「絆」を胸に、被災地の復興を心から切に願っております。